2025年度　町田市立武蔵岡中学校　学校経営計画・学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

令和7年3月31日

学校教育目標　●夢をもち、学び続ける人【課題対応能力・キャリアプランニング能力】 ●自分を大切にし、他を思いやる人【人間関係形成・社会形成能力】　●心も体も健やかな人【忍耐力、自己理解・自己管理能力】	学校経営の重点　教育活動全体を通して、児童・生徒が主体的に取り組む活動の充実を図り、「自分たちで学級・学校をつくる」という意識を醸成し、自己理解・自己管理能力を育成する。また、他者と協働する活動を通して、他を思いやり、尊重する心を醸成し、人間関係形成・社会形成能力の育成する。
●目指す学校像：・①児童・生徒がわくわくしのびのびと生活できる学校　②保護者にとって児童・生徒を安心して通わせることができる学校　③地域に信頼され、ともに歩み、選ばれる学校　④教職員が生き生きと働くことができる学校　●目指す児童・生徒像：①教職員が生き生きと働くことができる学校　②自分のよさを見付け、自分の役割を果たしたり挑戦したりできる児童・生徒　③課題を見付け、粘り強く取り組み、協働して最後までやりきる児童・生徒　④自分の夢をもち、将来のことを考えることができる児童・生徒　●目指す教師像：①愛情と理性をもって、本気で子供に関わる教師　②資質向上に向け、自ら学び続ける教師　③保護者・地域から信頼される教師　④施設一体型小中一貫校の特色を生かす教師	重点目標の成果と課題 ＜成果＞特別活動を中心に生徒が合意形成を図りながら、主体的に取り組むことができている。また、スケジュール帳、キャリア・パスポートの活用を通して、自己理解・自己管理能力の情報を図ることができた。また、いじめ・いやがらせ防止についても意識が高まっており、学校全体として落ち着いた生活を送ることができている。 ＜課題＞学習に対する苦手意識をもつ生徒が多く、学び方を学ぶ機会の充実や主体的に探究する場面の充実が必要である。また、生徒一人一人の学習状況等により、学びの多様化を推進し、個別最適な学びの充実を図ることが課題となった。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	ESD（持続可能な開発のための教育）、キャリア教育、環境教育の推進	●地域の特性を生かし、9年間を通した探究活動（ESD、キャリア教育、環境教育）の充実を図る。	4　地域や企業と連携した授業の実施（年間計画90%以上実施） 3　地域や企業と連携した授業の実施（年間計画80%以上実施） 2　地域や企業と連携した授業の実施（年間計画60%以上実施） 1　地域や企業と連携した授業の実施（年間計画60%未満実施）	2.9	C	A　児童・生徒アンケート　ア③「地域人材」肯定的回答率　80%以上 B　児童・生徒アンケート　ア③「地域人材」肯定的回答率　70%以上 C　児童・生徒アンケート　ア③「地域人材」肯定的回答率　55%以上 D　児童・生徒アンケート　ア③「地域人材」肯定的回答率　55%未満	65.3	C	地域の特色を生かした探究活動の充実に課題がある。地域人材や企業等の協力をより強固にする必要がある。 スケジュール帳の活用は、定着しており、ほとんどの生徒が活用することができるようになった。 広報活動については、教職員が積極的に情報発信を意識して行うことができており、保護者・生徒とも評価が高い。一方で、教職員は、目標を高く設定しているため、校内評価が低くなってしまった。	総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメントの充実を図り、地域人材や企業等の連携を強固にする。 キャリア教育については、本校の教育活動の軸として、より充実を図る。 広報については、保護者だけでなく、地域の方々への情報発信の方法について、検討を続けていく。（チラシや回覧、掲示等）	総合的な学習の時間での学習内容を確認する際に地域連携を踏まえた学習内容が計画されると良い。学校外に出かけて積極的に体験学習を行う機会を増やしていけると良い。 広報活動に関しては、学校外にある学校用掲示板を活用する。写真等が多めに載ってあり、生徒の教育活動が見やすいものが良い。部活動や委員会活動を活用し、生徒が作成できればなお良い。地域の方々も非常に目にする機会が多い。	B
			●全宅年において、スケジュール帳、キャリア・パスポートの活用を通して保護者と協力し、児童・生徒の自己理解・自己管理能力を育成する。	4　キャリア・パスポート、スケジュール帳活用による保護者との連携（一人当たり年間5回以上） 3　キャリア・パスポート、スケジュール帳活用による保護者との連携（一人当たり年間4回以上） 2　キャリア・パスポート、スケジュール帳活用による保護者との連携（一人当たり年間2回以上） 1　キャリア・パスポート、スケジュール帳活用による保護者との連携（一人当たり年間2回未満）	2.8	C	A　保護者アンケート　ア⑤「スケジュール帳の活用」肯定的回答率　80%以上 B　保護者アンケート　ア⑤「スケジュール帳の活用」肯定的回答率　70%以上 C　保護者アンケート　ア⑤「スケジュール帳の活用」肯定的回答率　55%以上 D　保護者アンケート　ア⑤「スケジュール帳の活用」肯定的回答率　55%未満	84.5	A				
		家庭や地域との連携強化	●学校行事、学校公開等による教育活動の公開 ●定期的にHPを更新し、学校生活の見える化、YouTube配信Google Classroomによる情報発信	4　年間250回以上のHP更新、YouTube配信40本以上 3　年間200回以上のHP更新、YouTube配信30回以上 2　年間150回以上のHP更新、YouTube配信20回以上 1　年間150回未満のHP更新、YouTube配信20回未満	2.9	C	A　保護者アンケート　ア①②「学校公開」「情報発信」肯定的回答率平均　80%以上 B　保護者アンケート　ア①②「学校公開」「情報発信」肯定的回答率平均　70%以上 C　保護者アンケート　ア①②「学校公開」「情報発信」肯定的回答率平均　55%以上 D　保護者アンケート　ア①②「学校公開」「情報発信」肯定的回答率平均　55%未満	100	A				
			●保教の会、保護者ボランティア、地域団体、近隣大学、幼稚園・保育園との連携強化を図り、多くの方々の協力を得て教育活動を展開する。	4　年間計画の90%以上実施、延べ200名以上の協力による教育活動の展開 3　年間計画の80%以上実施、延べ150名以上の協力による教育活動の展開 2　年間計画の70%以上実施、延べ100名以上の協力による教育活動の展開 1　年間計画の70%未満実施、延べ100名未満の協力による教育活動の展開	2.6	C	A　保護者アンケート　ア③④「地域人材」「学運協」肯定的回答率平均　80%以上 B　保護者アンケート　ア③④「地域人材」「学運協」肯定的回答率平均　70%以上 C　保護者アンケート　ア③④「地域人材」「学運協」肯定的回答率平均　55%以上 D　保護者アンケート　ア③④「地域人材」「学運協」肯定的回答率平均　55%未満	87.8	A				
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	児童・生徒が主体的に学び続けることができる授業の展開	●町田市授業改革研修に基づく校内研修の実施 ●児童・生徒が主体的に活動する授業の展開（各教科で実施）	4　各教科の標準時数の30%以上で主体的な活動を導入 3　各教科の標準時数の25%以上で主体的な活動を導入 2　各教科の標準時数の15%以上で主体的な活動を導入 1　各教科の標準時数の15%未満で主体的な活動を導入	3.3	B	A　児童・生徒アンケート　イ⑥「主体的な学び」肯定的回答率　90%以上 B　児童・生徒アンケート　イ⑥「主体的な学び」肯定的回答率　70%以上 C　児童・生徒アンケート　イ⑥「主体的な学び」肯定的回答率　55%以上 D　児童・生徒アンケート　イ⑥「主体的な学び」肯定的回答率　55%未満	62.2	C	本年度、教員の授業改革研修を本格的に始めたため、研修の成果が少しづつ出てきたものの、生徒が主体的に学ぶ、場面の設定や学び方を学ぶ機会の設定に課題がある。 ICTの活用は、校内での活用は進んでいるものの、家庭学習での活用が十分でないことが分かった。より効果的に活用できるよう環境整備をしていく必要がある。 小中一貫の取組の充実は、図られているが、教職員の意識として、より9年間を見通した取組にしていくことが求められる。	「主体的な学び」の充実を図るため、目標の設定、スケジュール帳の活用の充実を図る。また、学び方を学ぶ機会を設け、個別最適な学習方法を身に付けさせる活動の充実を図る。 ICTを適切な道具として活用できるよう継続的な指導を行っていく。 市内唯一の小中一貫校として、その特色を最大限に生かす取組の充実を図る。（小中合同入学式、合同運動会、学習の合同授業等）	家庭でICT機器を活用し、学習に取り組む方法を明確に確立できると良い。生徒には授業内で伝えるとともに、保護者にもどのように家庭でICT機器を活用し学習に取り組んでいくかを伝えると良いかは今後も検討していく。 フォーサイト手帳を生徒は活用できている。保護者に広報する上で、フォーサイト手帳をどのように活用できるかを今後検討していく。	B
			●ICTの効果的な活用とともに、個に応じた課題を設定し、知識・技能の習得を図る。	4　各教科の標準時数の50%以上でICTを活用した授業を実施 3　各教科の標準時数の40%以上でICTを活用した授業を実施 2　各教科の標準時数の20%以上でICTを活用した授業を実施 1　各教科の標準時数の20%未満でICTを活用した授業を実施	3.1	B	A　保護者アンケート　イ⑤「ICTの活用」肯定的回答率　80%以上 B　保護者アンケート　イ⑤「ICTの活用」肯定的回答率　70%以上 C　保護者アンケート　イ⑤「ICTの活用」肯定的回答率　55%以上 D　保護者アンケート　イ⑤「ICTの活用」肯定的回答率　55%未満	46.7	D				
		小中一貫校のよさを生かしたキャリア教育の実践および基礎・基本の定着と小中連携による教育の充実	●スケジュール帳等を活用し、自己管理能力の向上を図り、Qubenaの活用とともに家庭学習の定着を図る	4　学習計画、放課後の活用に関する取り組みの実施（年間20回以上） 3　学習計画、放課後の活用に関する取り組みの実施（年間15回以上） 2　学習計画、放課後の活用に関する取り組みの実施（年間5回以上） 1　学習計画、放課後の活用に関する取り組みの実施（年間5回未満）	3.4	B	A　児童・生徒、保護者アンケート　イ②「家庭学習」肯定的回答率平均　80%以上 B　児童・生徒、保護者アンケート　イ②「家庭学習」肯定的回答率平均　70%以上 C　児童・生徒、保護者アンケート　イ②「家庭学習」肯定的回答率平均　55%以上 D　児童・生徒、保護者アンケート　イ②「家庭学習」肯定的回答率平均　55%未満	72.3	B				
			●小中一貫教育の充実、連携授業の実施	4　小中連携授業の実施（年間延べ30時間以上） 3　小中連携授業の実施（年間延べ20時間以上） 2　小中連携授業の実施（年間延べ10時間以上） 1　小中連携授業の実施（年間延べ10時間未満）	2.8	C	A　保護者アンケート　オ①「小中一貫」肯定的回答率　80%以上 B　保護者アンケート　オ①「小中一貫」肯定的回答率70%以上 C　保護者アンケート　オ①「小中一貫」肯定的回答率　55%以上 D　保護者アンケート　オ①「小中一貫」肯定的回答率　55%未満	84.4	A				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	他者理解・自己理解を通じた規範意識の醸成、自己肯定感の高揚	●自分たちでルールを考え、決定する活動を通して、規範意識の醸成を図り、他者を大切にする心を育成する。	4　決まりやルールについて考える活動を年間10回以上実施 3　決まりやルールについて考える活動を年間8回以上実施 2　決まりやルールについて考える活動を年間5回以上実施 1　決まりやルールについて考える活動を年間5回未満実施	3.7	A	A　児童・生徒アンケート　ウ②「規範意識」肯定的回答率　80%以上 B　児童・生徒アンケート　ウ②「規範意識」肯定的回答率　70%以上 C　児童・生徒アンケート　ウ②「規範意識」肯定的回答率　55%以上 D　児童・生徒アンケート　ウ②「規範意識」肯定的回答率　55%未満	88.9	A	生徒は、学校生活を非常に落ち着いた状態で過ごせている。また、特別活動の充実により、「合意形成」を図る場面が多く、協働する機会が多く設定されている。 いじめ防止、人権についても、生徒は、非常に高い意識をもって生活している。一方で、教職員がより高い目標を設定していたことが分かった。	安心安全に生活できる環境の整備を継続的に図っていく。 特別活動をこれまで通り充実させ、生徒が自らの学校を自分たちで作っていくという意識の醸成を図る。 いじめ・いやがらせ防止については、特別の教科道徳だけでなく、特別活動等の充実を図り、他を思いやる心の醸成を図る。 不登校対応については、学びの多様化の充実に向けてフリースペースのさらなる充実を図る。	中学生も自己肯定感は高い。学校全体で良い雰囲気を醸成できていることは生徒も教員も自信にして良い。 保護者連絡の内容が暗い話ばかりにならないように、生徒の良い発言や行動等を積極的に保護者に連絡するように心がけると良い。	A
			●特別活動を中心に他者との「合意形成」が図られる活動を推進し、よりよい人間関係を構築するための基礎的な資質・能力の育成を図る。	4　各学級で特別活動において、「合意形成」を図る活動を年間10回以上実施 3　各学級で特別活動において、「合意形成」を図る活動を年間8回以上実施 2　各学級で特別活動において、「合意形成」を図る活動を年間5回以上実施 1　各学級で特別活動において、「合意形成」を図る活動を年間5回未満実施	3.4	B	A　児童・生徒アンケート　ウ⑦「合意形成に関する活動」肯定的回答率　80%以上 B　児童・生徒アンケート　ウ⑦「合意形成に関する活動」肯定的回答率　70%以上 C　児童・生徒アンケート　ウ⑦「合意形成に関する活動」肯定的回答率　55%以上 D　児童・生徒アンケート　ウ⑦「合意形成に関する活動」肯定的回答率　55%未満	100	A				
		人権教育、道徳教育、いじめ・いやがらせ防止教育推進	●自分事として「考える道徳」の授業を実践し、対話や振り返りの充実を図り、道徳的実践力を育てる。	4　80%以上の授業で実施 3　70%以上の授業で実施 2　55%以上の授業で実施 1　55%未満の授業で実施	3.7	A	A　児童・生徒アンケート　ウ⑥「考える道徳」肯定的回答率　80%以上 B　児童・生徒アンケート　ウ⑥「考える道徳」肯定的回答率　70%以上 C　児童・生徒アンケート　ウ⑥「考える道徳」肯定的回答率　55%以上 D　児童・生徒アンケート　ウ⑥「考える道徳」肯定的回答率　55%未満	97.5	A				
			●いじめ・いやがらせの未然防止のために、いじめ防止研修、人権教育、特別支援に関する研修を各年3回以上実施し、いじめ・いやがらせの見逃しゼロとする。	4　すべてのいじめ・いやがらせについて、指導、保護者との情報共有の実施 3　95%以上のいじめ・いやがらせについて、指導、保護者との情報共有の実施 2　90%以上のいじめ・いやがらせについて、指導、保護者との情報共有の実施 1　80%以上のいじめ・いやがらせについて、指導、保護者との情報共有の実施	3.3	B	A　児童・生徒アンケート　ウ①「いじめ防止・人権」肯定的回答率　80%以上 B　児童・生徒アンケート　ウ①「いじめ防止・人権」肯定的回答率　70%以上 C　児童・生徒アンケート　ウ①「いじめ防止・人権」肯定的回答率　55%以上 D　児童・生徒アンケート　ウ①「いじめ防止・人権」肯定的回答率　55%未満	97.5	A				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する.	運動の習慣化と基本的生活習慣の定着を図り、生涯にわたり健康的に生活できる力を育む。	●体力テストの結果分析を活用し、体育科（小学校）、保健体育科（中学校）で連携した授業の推進し、運動を好きになる児童を増やし、運動の日常化を図る。	4　年間15時間以上の体育科連携授業の実施 3　年間12時間以上の体育科連携授業の実施 2　年間9時間以上の体育科連携授業の実施 1　年間9時間未満の体育科連携授業の実施	2.9	C	A　保護者アンケート　エ①「運動習慣」肯定的評価　80%以上 B　保護者アンケート　エ①「運動習慣」肯定的評価　70%以上 C　保護者アンケート　エ①「運動習慣」肯定的評価　55%以上 D　保護者アンケート　エ①「運動習慣」肯定的評価　55%未満	60	C	日常の運動習慣、食生活、基本的生活習慣についての課題が大きいことが分かった。意識を高める取組が必要とされる。 生徒の安全意識は高く、自らの安全を確保することができるようになってきている。防災や交通安全だけでなくネット上での安全意識の向上も課題となる。 校内整備について、用務主事、事務職員を中心とした破損状況の把握や全職員で行っている安全点検による成果が上がっている。また、生徒も物を大切に扱うことができている。	保健体育科を中心に運動習慣の大切さ、楽しさを知ることや、休み時間や放課後における運動機会の充実を図る。また、委員会活動による啓発により生徒同士が声掛けを行うことができる環境整備を図る。 安全意識の向上に向けて、より現実に近いシミュレーションや、地域連携による訓練等の充実を図る。 校舎躯体の老朽化がみられるようになったが、安全点検の充実を図り、さらなる校内整備を行っていく。	生活習慣を整えることや朝食を食べてくることに関して、生徒自身がなぜ生活習慣を整えることが良いのかや朝食を食べるとどんな良い効果があるのかということを理解して取り組めるような教育活動を展開できると良い。 小学校体育での良い経験を活かし、中学校でも積極的に体育の授業にのぞませられると良い。体育の授業の中で必要最低限な運動を行わせられると良い。	B
		校内における安心・安全な生活環境の整備と危機管理体制の確立を図り、児童が自他の命や心身を守る力を育成する。	交通事故、不審者対応、災害時避難等の安全意識やネットマナーの育成をするため、ねらいを明確にした安全指導等を計画的に実施する。	4　年間計画の90%以上を明確なねらいをもって実施（月1回以上） 3　年間計画の80%以上を明確なねらいをもって実施（2ヵ月に1回以上） 2　年間計画の70%以上を明確なねらいをもって実施（学期に1回以上） 1　年間計画の70%未満を明確なねらいをもって実施（年2回程度）	3.3	B	A　児童・生徒アンケート「相談」「安全意識」について肯定的評価　80%以上 B　児童・生徒アンケート「相談」「安全意識」について肯定的評価　70%以上 C　児童・生徒アンケート「相談」「安全意識」について肯定的評価　55%以上 D　児童・生徒アンケート「相談」「安全意識」について肯定的評価　55%未満	95	A				
			施設・設備の確実な安全点検の実施、迅速な修繕に加え、施設・設備を大切に扱う心を醸成し、生徒が安心して生活できる環境を整える。	4　点検後迅速な対応（2週間以内　90%以上対応） 3　点検後迅速な対応（2週間以内　80%以上対応） 2　点検後迅速な対応（2週間以内　70%以上対応） 1　点検後迅速な対応（2週間以内　対応70%未満）	3.7	A	A　保護者アンケート　カ①「校内整備」肯定的評価　90%以上 B　保護者アンケート　カ①「校内整備」肯定的評価　80%以上 C　保護者アンケート　カ①「校内整備」肯定的評価　70%以上 D　保護者アンケート　カ①「校内整備」肯定的評価　70%未満	97.8	A				
その他													